

地域資源を生かしたまちづくり ～人口減少予測のもと、地域資源活用で人を呼べない？

新 地域資源を生かしたまちづくり

(1) 魅力で人をひきつける【人口減少に対抗した魅力あるまちを】

人口減少に対抗した活力あるまちを

- ・ 働く人の減少、限界団地が出現する懸念など、財政は危機的状況。みどりだけでは、まちは潤わない
- ・ 水のみどり、安全・安心だけで住みやすいか？いいのか？
- ・ 現状では市は特徴のあるまちづくりができていない。それらを改善しようとする動きが感じられない。農業、農産物を大切にすることで、東久留米らしいまちづくりは期待できるのか。
- ・ 人口減少にまかせるのではなく、魅力づくりで人口をひきつける
⇒若者が流出しない・戻る・子育て層が来る(開発で呼び込む)
- ・ 若者も集まる興奮と感動、文化や知性のあるまちを
- ・ 少子高齢化の中、地道に市民の地元への愛着を形成することが重要
- ・ お金がない中で、どのようなまちづくりをするか工夫することが重要だ
- ・ 観光に力を入れる必要がある
- ・ 産業や大学を呼ぶ、スポンサーシップを募集するなど、財政なども考えた大局的な判断が必要

新 地域資源を生かしたまちづくり

(2) 東久留米市がもつ地域資源を生かした魅力づくり・まちおこし【水とみどり、寺社、自由学園などを生かす】

東久留米は魅力的、これで人をひきつける	<ul style="list-style-type: none">・ 「多摩ら・び」の特集をみて、中央区、世田谷区、練馬区の友人が来たがった・ 東久留米市は、こじんまりしていて、水とみどりのバランスがとれていて「よい」。川に入れるというのも魅力的・ 東久留米の魅力を観光に活かさないか？
水とみどりを生かしたまちおこしができるのでは	<ul style="list-style-type: none">・ 湧水、黒目川、落合川、水浴び・ 四季折々の資源・生き物「人が入って遊べる」水とみどりというアピールも・ 第2、第3のいこいの水辺づくり・ 川辺でアートイベントを：美大と協働し、小学生の図工なども活用して、川辺でピエンナーレ・ アートイベントに、商店街（黒目川近くの、かるがも商店街等々）やホームセンター（材料供給）などが絡んで、経済波及効果を生む。・ 河童のクウのような、キャラクター資源も・ 湧水コンパニオン（ガイド）などで、まちの中を見る・観るしかけ ⇒ 飲食・店にお客を呼び、経済効果を出し、地元で働けるようにする（地元雇用の創出）・ 湧水を歩く人も多い。資源があることがわかるようなマップ、立て札を・ 3つの川とみどりのコラボレーションまちづくり。川辺ごとに世界の花を植えるなど、外から人が呼べるようなインパクトのある取り組みで観光振興を（例）巾着田、清瀬のかたくり）・ <u>緑と花のリレーのように、一年中楽しめるまち</u>・ 資源の保全とのバランスに留意しつつ、市民や市外にPRして、人を呼ぶことが必要・ 野草園の準絶滅危惧種を増やす、春・秋の七草を増やすなど、日本の花でアピールすることも考えられる・ 東久留米市においては、水や農地からとれる野菜が売りになるため、これらに付加価値をつけて、市を広く売り込むのがよい・ 地場産品を一箇所に集めて、展示販売する
地域資源を生かしたまちおこしをしては	<ul style="list-style-type: none">・ 地域資源で来てもらう、リピーターを増やす ⇒ 消費につなげる・ 学園町の屋敷（保存指定か？）やアメリカンスクール、グレゴリオのパイプオルガンなども資源。これらの存在をまち中にひき込む方策を・ 自由学園、柳窪の屋敷の公開など、文化と知性が感じられる資源を活用する自然に加えて、神社や七福神・ 富士山に見える景観もポイント・ 柳窪の景観、氷川神社・ 団地内の緑をめぐる散歩コース・ <u>史跡や白山公園で船を浮かべるなど、観光名所をつくる</u>

新 地域資源を生かしたまちづくり	
(3)新たに文化・芸術施設をつくる【美術館をあえて新設、芸術系大学の誘致・連携】	
文化関連施設をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ・美術館などの文化施設をあえて新設すべき。 ⇒ マルシェ・交流機能を併設させ、交流を促す。 ・未来志向の美術館、例えば自然エネルギー美術館など、独自の文化施設を、お金をかけてでもつくるべき ・美大や音大など、文化が感じられ、昼間に人をよべる施設を誘致する ・新たな施設とつくってもやる←→ハコモノはつくるべきではない。
新 地域資源を生かすためにするといいこと・実現化方策	
(1)地域資源を生かすためにするといいこと【民間施設活用、マップ、循環バス、ガイドなど】	
民間施設も活用	<ul style="list-style-type: none"> ・民間の施設だから、都の施設だからといわず、活用すべきものは活用する姿勢で ・資源・施設マップをつくるなら、市民も参加して、より効果的なものを ・自転車で資源を回るルートも案内するとよい。レンタサイクルも ・資源を回る循環バスがあるとよい ・いいところはあるけど、行きにくい ⇒マイクロバスを回しては？ ・文化財などのスポットに行きにくい ・観光ボランティアを募る ・市の特徴や利点をもっと外部に発信する機能を充実し、観光事業に結びつける
(2)地域資源を生かすための実現化方策【市民参加のしくみ、行政主導の継続的・横断的な取り組み】	
市民の参加	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことに聞き役をもうけ、人を集めて、既存設備を有効活用して、人の交流を盛り上げる。 ・市民がやることに市が参加する形も
継続的・横断的に。民間とも協力	<ul style="list-style-type: none"> ・単発で終わるのでは、効果が続かない ・関係所管や各種団体(JA、商工…)がばらばらで、やることの求心力に乏しい 旗振りや窓口機能を持つ担当を、市におくとよいのでは？ ・市役所内部の横のつながりが重要 ・継続的に、メディアを活用しながら、東久留米市をPRする「PR担当」を市におき、盛り上げを図るべき ・市民アイデアが西武鉄道のウォーキングに発展。売れる資源をもって西武鉄道と協力を